エピローグ　No3

　みんなの結論は…モルフィスを犯人として拘束することであった。

　彼は狂ったように抵抗したが、数人の力で抑えられ、やがて大人しくなった。
そして 夕方到着した警察に引き渡されていったのである。

　モルフィスは警察に取り調べを受け、殺人罪としてではなく、麻薬取締違反により
有罪をうけることになった。

　ジャックを殺害した犯人は、その後逃走しいまだ捕まっていない。
一時期は連日報道される日々が続いたが…やがて世間も忘れてしまったようだ。

　それから12年の歳月が流れ…

　この国では殺人に対する時効が宣言される年月だ。
ようやく…　ようやく、私は明るい日の光のもとを歩けるのだ。

　私は…思い立ったように車をはしらせ、12年ぶりにあのホテルに行った。

　偽名を使いホテルにチェックインする。
　昔よりもずいぶん綺麗になったものだ。 オーナーが変わるとこんなにも変わるものか。

　「ま、まさか貴方…」

　不意に声を掛けられた。 もう何年も会っていないが…誰の声かはすぐに分かる。

　「キャシー、元気そうで何よりだ。一目みれて、本当によかったよ。」

いまや中年となり子供もいるようだが、彼女の魅力の笑顔は今でも残っていた。

　事件直後、私と一緒に逃亡に協力してくれた彼女だが、やはり巻き込むわけには
いかない。私はひとり彼女の元を去っていた。

　翌朝、彼女と語り尽くした私は早々にホテルをチェックアウトする。

　もう二度とここに来ることはないだろう。
　悪夢から覚めた私は、また次の道を歩まねばならない。

ロンの手記より